新人含む六市議　県議は三つ巴で現役

統一選

4月24日の柏崎市議会議員選挙（定数26）で母校出身者は、8人が立候補し、6人（新人2人を含む）が当選した。新人9を加えた全立候補30は、選挙前に減らした定数と同じ、激戦を繰り広げた。

初当選の与口善之氏は、学生時代に東京柏会幹事長、父幸雄氏（高8）が市議在職中死去しており、親子誕生となった。出身議員次の通り。

［新人］▽与口善之（高29・52、橋場町）▽笠原晴彦（高40・41、加納）

［現職］▽真貝維義（高23・58、春日1）▽霜田彰（高18・63、松波2）▽加藤武男（高22・59、西山町坂田）▽佐藤敏彦（高23・59、佐藤池新田）

前半戦の県議選の柏崎市刈羽郡区（定員2）では、現役2氏の無投票当選予想に、告示の1日、元刈羽村議で反原発派の武本和幸氏（61、高20）が出馬、三つ巴戦で10日投票となった。

当　18280　東山　英機
当　16644　三富　佳一
　　14886　武本　和幸

とっこつ人往来

（原則として卒業順）

藤田市郎氏（中28、元柏崎四谷郵便局長）4月21日死去した。96歳。

高橋保氏（中41、前柏崎市体育協会長）1月22日開かれた新春体育懇親会で、体育功労賞を贈られた。

本間昭夫氏（高3、元日本石油勤務）2月15日死去、77歳。卒業後の昭和26年開かれた県都市対抗野球大会で、4打数4本塁打を放って全国的に大きな話題になった。

山田明彦氏（高18、柏崎日報社代表取締社長、柏中柏高同窓会副会長）2月1日付で会長に就任した。

松原眞之介氏（高22、植木組常務）4月1日付で取締役専務執行役員、建築本部長に昇格した。

新澤秀樹氏（高22、新沢歯科医院）4月1日の柏崎市歯科医師会役員改選で会長に就任した。副会長には石黒壽氏が留任した。

山田茂氏（高24、前柏崎市会計管理者、22年8月死去）水泳や水球普及発展の功労で、県体育協会から12月15日県スポーツ者功労賞、柏崎市体育協会から1月22日感謝状がそれぞれ贈られた。

阿部義章氏（高25、柏崎日報編集長）2月1日付で代表取締社長に選任された。後任の取締役編集長に田中啓子、監査役に山田大介両氏が就任した。

近藤正和氏（高42、日本将棋連盟棋士六段）第三十六期「棋王戦」（3月6日岬館）で、大盤解説を務めた。柏崎初の棋王戦は五番勝負第三局、久保利明棋王・王将(36)が、渡辺明竜王(26)を177手で制し2勝1敗、18日の第四局（大阪）でも勝ち3連覇に。

杉田愉氏（高45、映画監督）柏崎文化協会から2月19日特別表彰された。柏崎をテーマの短編映画を数々制作した。

西川嘉純氏（副会長・西川孝純氏長男、千葉県浦安市議）4月17日の浦安市議選で第4位と前回（第10位）を上回る得票で再選された。同市は東日本大震災の被害を受け、県議選再選挙と異常な事態で注目されたが、現役の強味を十分に発揮した。専修大卒、35歳。

岩下鼎氏（岩下庄十郎商店社長）江戸時代より続いた岩下紙店（旧本町4）を震災の打撃もあって、12月31日廃業を広告した。

重原芳雄氏（明治饅頭の美野屋社長）3月15日死去した。88歳。

◇死亡通知◇（遺族の通知による）▽天尾章三氏（中36、戸田市）12月9日▽三井田好氏（高2、さいたま市南区）7月30日▽猪股宣明氏（高2、川崎市麻生区）

国の有形民俗文化財に

農家への貸しクワ制

かつて農家で利用されていた〈貸鍬（かしくわ）制度〉。その「越後の貸鍬用具」（柏崎市立博物館所蔵）が3月、文部科学大臣から国の登録有形民俗文化財に指定された。有形民俗文化財の登録は、全国で17件目、県内でもはじめて。

上中越地方の農家では、江戸時代から昭和にかけてクワを自宅で持たず、農繁期にカジ屋（鍛冶屋）から貸し出してもらって、貸付料を米で払う習俗があった。カジ屋は農閑期に痛みを必要に応じて修理、翌春また貸し出すという、積雪期にクワの使えない農家ならではの合理的なレンタルシステム。

博物館では、前館長の三井田忠明さん（高19）を中心に長期間にわたり、市内をはじめ妙高、小千谷など各地で調査、収集をした。それによる史料として、貸鍬123点をはじめ帳面類19点、製作・修理用具113点、集米用具11点と合計266点が登録された。クワには土質や習慣などから、角度、刃の大きさや柄の長さに特徴があり、また貸し出し帳面には、県内で最古の文化元年（1804年）から昭和まで取引を示すものもある。

カジ屋は廃業すると、貸し鍬帳を燃やし、貸しクワを農家に譲ってしまうこともあって、研究には苦労があったようだ。それだけに「新潟県を特徴づける農具、社会慣行を具体的に示す資料は、博物館以外にはない。一定の評価を得たことはうれしい」としており、指定記念の公開展示『貸鍬ってしっていますか？』が、4月24日まで開催された。

県有形文化財に　下谷地の出土品

下谷地遺跡（柏崎市吉井地内）の出土品が、3月県有形文化財に指定された。

遺跡は、北陸自動車道建設用地から弥生時代の住居19棟が発掘され、北陸地方有数の大規模集落として1979年国史跡に指定された。ここからの出土した土器、石器、玉作り資料など646点（市立博物館保管）が、貴重な考古資料とされた。

包丁形石器、農耕具の平くわ、土器などでは、遺跡周辺で水稲作が行われたことを示す一方、管玉の一連の製作工程がそろっている。

本ほん

考古学のロマン直影

巻口省三著『刈羽貝塚の発掘』

①太平洋側に数多い貝塚の中で、珍しい日本海側②縄文式中期の土器群で、貝殻は淡水のシジミ貝が多い③昭和27年（1952年）12月10日県史跡文化財指定――巻口さん（高3）のまとめた刈羽貝塚は、端的にはこういうことになるか。

刈羽貝塚は、考古学にある〝迷路のロマン〟そのままにデビューした。84年前の昭和2年5月、平野啓司さん（中2）が『越後タイムス』の投稿欄に着目し「日本海側に貝塚はないはずだが」と精力的に動き、8月刈羽村へ2人の知人を案内、村人の協力で発掘が行われたのだ。主幹の中村葉月さん（中4）が、紙面でリードしたのも幸運だ。

胃腸病の権威でゲーテ研究でも有名な平野さん、京大清野謙次、慶大川上漸の両教授と3人とも当時珍しい医学博士、村でも大騒ぎに。「日本に六〇〇余ある貝塚のうち、日本海側では5つ目で貴重」とされた。

25年後の昭和27年4月、第二のメスが入った。八幡一郎さん（東京国立博物館、後東京教育大教授）を中心に北方文化博物館（新潟市江南区）により、石器26個、骨製かんざし1個、土器3077片が採取され、今も展示されている。

発掘をめぐる経緯、平野さんや三井田忠さん（比角）ら関係者の業績もまとめられている。発掘後に母校赴任（定時制＝昭和28、29年）の村越潔先生（現弘前大名誉教授）も登場。前著『柏崎刈羽文学散歩』から実に8年がかりの労作。1200円、わかい印刷（柏崎市田中16―15）発行。（松）

北原日本語、文春文庫から2冊目

〝日本語ブーム〟引き出した北原保雄氏（高7、元筑波大学長）が、新春早々に文芸春秋からの文春文庫で『日本語の常識アラカルト』を出版した。

「こだわりの日本語」「日本語の常識」「日本語あれこれ」の3章に分けて、敬語の誤用や若者言葉の誤りなど、〝一般に使われている〟おかしな言葉〟の問題点をわかりやすく解説している。文春文庫では『達人の日本語』に次いで2冊目。

また昨年暮には、日本語ブームのきっかけにもなった編集刊行の『明鏡国語辞典』（大修館書店）が、新しい常用漢字表告示に対応して大改定され、第2版として出版界で話題を呼んでヒットしている。

市人口、県内6番に

国勢調査　3回連続減る

国勢調査（昨年10月1日）の発表（2月）によると、柏崎市の人口は9万1463人で県内で6番目、3万4107世帯。前回（2005年）よりも3185人減（3・4%）で、411世帯増（1・2%）となった。刈羽村は4802人で14人減、1653世帯で175世帯増（11・8%）。

新潟県は、237万4922人で前回より5万6537人減（2・3%）、83万8922世帯で1万9370世帯増（2・4%）。トップの新潟市は81万2192人で、全体の34・2%を占め、長岡市28万2719人、上越市20万3869人、三条市10万2309人、新発田市10万1207人に柏崎が続いた。

柏崎（合併の旧高柳、西山両町を含む）の調査人口は、1995年をピークに3回連続減少。17地域別では、旧市内4万1679人（586人減）で、5千人以上が田尻、西中通、高田、西山町、荒浜の5か所。人口増は西中通と北鯖石の2カ所だけ。最も減少率の高いのは高浜の22・1%で512人、上米山21・9%239人、黒姫17・7%1264人と続き、高柳町は17・0%で1860人と2千人を割った。

編集後記

◆2003年母校が甲子園に出て9年目、早いものだ。今春、あの日本海の向側・佐渡高が、〝縁遠い野球〟の新潟から2校目となった◆島で得られない練習試合の相手校を求め、土曜早朝フェリーで本土へ、日曜最終便の中で宿題をクリアーするという遠征。「雪が多くて…」という、ハンデキャップの〝泣き言〟は、なくなっている。関東はもちろん全国各地に出掛けるのが、当たり前に◆監督の深井浩司さんは、母校野球部長と佐渡監督と、両校を『21世紀枠』で出場にさせた。多分全国でも希有なケースだろう。母校では鈴木春樹監督（現県央工）とコンビで、我々に〝夢〟を与えてくれた。しかしコンビ解消以来、母校に〝強者〟〝ダークホース〟の声が聞かれなくなった。新潟県も私立校の活躍が目立つ◆もう間もなく「遠くて故郷を思う」機会。〈地震・雷・火事・親父〉どころではないモノに縁をもち、毎日朗報を祈っている一方、フレーフレーハッコウーの活躍も期待するばかりである。（編集委員・松浦孝義）

アジロヤキ　くろようかん
新野屋
新野京一（高22）
柏崎市駅前一―五―一〇
TEL（二二）二三三七

元祖　明治饅頭
美野屋
重原芳樹（高20）
柏崎市駅前一―二―三一
TEL（二三）三九〇五

郷土のたより
越後タイムス
編集発行人　柴野毅実（高22）
TEL（二三）六三九六

柏中・柏高同窓会副会長
柏崎日報社代表取締役会長
山田明彦（高18）
柏崎市西本町一―六―一
TEL（二二）三一二一

弁護士
田中平八（高1）
港区新橋四―二九―六
（寺田ビル四〇二号）
TEL（三四三六）六五九五（代）

弁護士
水嶋幸子（高6）
千代田区神田須田町二―六―二
神田セントラルプラザ七〇二号
TEL（三二五八）〇〇五五

弁護士
今井健子（高13）
荒川区西日暮里二―二五―一
ステーションガーデンタワー八〇四号
TEL（三八九一）七五一五

弁護士
高橋巽（高15）
新潟市中央区関新二―一―七三
新潟ダイカンプラザ遊学館三〇七
TEL（〇二五）二三三―七七〇〇